

電信課長

大臣

次官

會文人文情條通歐亞
計書事化報約商米細亞

寫送先

昭和6 一〇二七一 暗

漢口 二十八日後發
本省 七月三十日後着

亞、通

幣原外務大臣

第四九八號

往電第四九三號ニ關シ

昨二十六日迄各漢字紙ハ萬寶山事件關係並各地ニ於ケル排日排貨ノ記事ヲ相當多量ニ掲載シ居タルカ昨二十七日以來武漢日報等ノ主要新聞ニ對日經濟絕交ヲ唱道セル論說ヲ見タル外關係記事總シテ激減セリ右ハ北方時局ノ關係ト當地水災ノ影響ニモ依ル所多カルヘキモ元來當地今回ノ排日排貨運動ハ市黨部ヲ中心トスル國貨運動委員會等少數ノ職業的排外分子ニ於テ躍起トナリテ騒キ立テ居ル形ニシ

外務省

0296

959

S 1.1.1.0-7

0297

960

S 1.1.1.0-7

テ新聞ノ煽動ニ拘ラス一般ハ比較的冷靜ニテ四三事件及山東出兵後ニ於ケル排日「ボイコット」ノ場合ニ比シ地方人士ノ感情ヲ刺戟スルコト左ノミ「アキユート」ナラサル點ニ於テ空氣モ大イニ異リ居リ前回ノ排貨ニ依リ相當痛手ヲ受ケタル中國側商人ノ間ニハ公然異議ヲ唱ヘサル迄モ可ナリ根強キ反對ノ意見ヲ有スル向モ鮮カラサルヲ以テ直ニ經濟絕交ノ具体化ヲ來スコトナカルヘキ模様ナリ今後トモ大体ニ於テ上海ニ於ケル排貨運動ノ景況次第ニ依リ左右セララルモノト見ルヲ得ヘク別ニ當地ニ於テハ累次電報ノ通之迄數次ノ排日的催アリテ經濟絕交實行方ヲ決議セルモ今以テ之カ具体的實行方法ノ決定ヲ見ルニ至ラス來ル二十九日夜ノ對日經濟絕交談話會ニ於テ最後ノ態度決定セラルヘキヤニ傳ヘラレ居ル位ニテ勿論將來ノ推移

外務省

ハ豫メ樂觀ヲ許ササルモ萬一上海方面ニ引摺ラレテ當地ニ排貨ノ實行ヲ見ル場合ニ於テモ現ニ警備司令部ノ共產黨員取締嚴重ナル關係モアリ特ニ地方的不祥事件ノ突發ヲ見サル限り進ンテ邦人ニ危害ヲ加ヘ乃至租界ヲ襲撃スル等ノ舉ニ出ツルカ如キコトハ萬々無カルヘキ見込ナリ尤モ前記事情ニ照シ愈其場合ニ於ケル排貨ノ實行振ハ恐ラク従前ノ例ニ比シテ大イニ深刻ナラサル代リニ朝鮮事件ノ解決又ハ重大ナル時局ノ變轉ヲ見ル迄寧ロダラダラニ續ケラルルコトトナルヘク從テ程度ノ強弱ハ暫ク別トシ當地ノ排日排貨運動ハ今後相當永キニ亘ルモノニアラスヤト觀察セラル御參考迄

タシ

支ヨリ上海及商務參事官へ奉天ヨリ哈爾濱、吉林、長春へ轉報アリ

外務省

S 1.1.1.0-7 961 0298

冒頭往電ノ通轉電暗送セリ

外務省

S 1.1.1.0-7 962 0299

寫送先

會文人文情條通歐
計書事化報約商米

亞細亞

次官
大臣

電信課長

分類 1.1.0.20-1

（至急親展）
昨日拓務省朝鮮部長ニ對シ左ノ通電報シ置キタリ御含ミ迄
這般ノ鮮支人衝突事件ニ於ケル支那人死者ノ數ニ關シ二十三日書面
報告シ置キタル處ナルカ本月十一日附書面報告以後平壤ニ於テ重傷
ニシテ入院加療中ナリシモノ五名死亡シタルト平安北道義州郡及江
原道通川郡ニ於テ各一名宛殺害後數日ヲ經タル支那人死体ヲ發見シ
タルトニ依リ計七名ノ死者ヲ増シ本日現在ハ累計百十九名トナレリ
然ルニ之ニ關シ平壤中華商會及平壤ニ滞在セル鎮南浦副領事等ハ地

亞細亞局長

昭和6 一〇一三二 平

光化門
本省

二十八日後發
七月二十八日後着

亞

警務局長

外務省

6 1.1.1.0-7

964

0301

寫送先

會文人文情條通歐
計書事化報約商米

亞細亞

次官
大臣

電信課長

分類 1.1.0.20-2

（第六〇號）
連日ノ降雨ニ依リ奧地ヨリノ出水甚シク南潯鐵道ハ昨日ヨリ不通ト
ナリタルカ開通迄ニ約一週間ヲ要スル見込ナリ
又九江モ楊子江氾濫ノ爲山ノ手及舊英租界ノ一部ヲ除キ殆ト全部浸
水シ市内ノ交通頗ル不便トナレリ之カ爲朝鮮事件ニ對スル一般ノ注
意緩和セラレ市面極メテ平穩ニシテ目下ノ處排日排貨ノ風潮無シ
代理公使ヨリ上海へ轉報アリタシ
代理公使、北平へ轉電シ漢口、南京へ暗送セリ

幣原外務大臣

昭和6 一〇一三一 暗

九江 二十八日後發
本省 七月二十八日後着

亞

河野領事代理

外務省

6 1.1.1.0-7

963

0300

寫送先

會文人文情條通歐亞
計書事化報約商米細亞

大臣
次官

電信課長

昭和6 一〇一四三 平

奉天 本省

廿八日後發
七月廿八日後着

亞

幣原外務大臣

林總領事

第四八一號ノ一

三浦

奉天中國民間各團體連名ヲ以テ大要左ノ如キ宣傳ヒラヲ頒布セリ
朝鮮事件ニ關スル日本當局ノ聲明トシテ新聞ノ傳フル所ニ依レハ一
直接ノ原因ハ萬寶山事件ニシテ其根本原因ハ滿洲ニ於ケル近年來ノ
鮮農壓迫ニ對スル反感ノ鬱積ニシテ終ニ今回ノ報復手段ニ出テタル
モノナリトノ事ナルカ中國人民ハ此說ニ對シ益々了解ニ苦シム萬
寶山事件ノ經過ハ衆目ノ看ル通決シテ其曲中國ニ在リト言フ可ラス
殊ニ鮮農ニ一人ノ死傷無ク且現ニ武裝日警監督ノ下ニ工事ヲ繼續シ

S 1.1.1.0-7

966

記

0303

外務省

元朝鮮人等ニ付調査ノ結果竊ニ政府及本府ニ於テ發表セル死者以外
ニ尙十數名ノ死体アルコトヲ感知シタル様子ナルヲ以テ政府ニ於テ
ハ此報告ニ基キ正確ナル數字ヲ支那側ニ通告セララル、ノ要アリト認
メラル本件ニ關シ平壤地方ニ於テハ多少疑惑ヲ懷ク者アルヲ以テ此
際正確ナル數字ヲ發表スルヲ機宜ノ處置ト認メラル、ニ付來ル三十
日ヲ期シ新聞紙ニ發表致度ク御了承相成度シ追テ本月十一日附書面
報告中平安南道大同郡ニ於ケル死者一四名トアルハ一二名ノ誤リナ
ルコト判明シタルニ付訂正ス

外務省

S 1.1.1.0-7

965

0302

寫送先

大臣 次官
亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 文書 會計

電信課長



昭和6 一〇一五〇 平

奉天 本省

廿八日後發
七月廿八日後着

亞

幣原外務大臣

第四八號ノ二

林總領事

朝鮮ノ警察ハ完全周密ニシテ前例ニ徴シ如何ナル事件ニ對シテモ機敏ニ彈壓シ得タルニ拘ラス獨リ今回ノ事件ハ事前ニ充分豫防セス又事後ニ積極的保護ヲ加ヘス斯ル重大事件ヲ惹起シタル點ニ對シ日本ハ國際慣例上其責任ヲ免ルヘカラス滿洲ニ於ケル鮮農問題ノ難點ハ二重國籍問題ニアリテ鮮農ハ既ニ歸化ヲ願ヒ中國又之カ斡旋ヲ冀フモ獨リ日本當局カ鮮人歸化ノ後中國々籍ヲ承認セサル爲時ニ不祥事件ヲ惹起シ外交問題ヲ誘發スルハ遺憾ナリ中國ハ久シク既ニ二重國

S 1.1.1.0-7

968

記

0305

居ルノミナラス近年東北ニ於ケル鮮農移住者ハ約百萬ニ達シ不逞分子ニ對シテハ取締ヲ加ヘ居ルモ善良ノ分子ニ對シテハ毫モ壓迫ノ事實無ク從テ今尙鮮農ノ移住者増加ノ狀態ナルヲ以テ鮮人側ニ於テ反感ヲ抱ク可キ理由無シ之ニ依テ之ヲ見レハ朝鮮事件ハ別ニ動機有ルカ如ク他人カ野心ヲ以テ無智ノ民衆ヲ煽動シ且日本及朝鮮新聞ノ捏造記事又與リテ力アリト言フ者アリ中國人民ハ固ヨリ俄ニ之ヲ信セサルモ其跡ヲ辿レハ源ニ達ス可ク有力ナル反證無キ限り中國人ノ疑ヲ免レ難シ(續ク)

外務省

S 1.1.1.0-7

967

0304

籍問題ノ根本解決ヲ希望シ唯日本當局ノ誠意協商ヲ待ツノミ之ヲ要
 スルニ萬寶山事件ト朝鮮事件トハ截然區別シテ混同スヘカラス如何
 ナル問題モ正當ノ解決方法ヲ講シテ始メテ圓滿ナル結果ヲ見ルヘク
 徒ニ無謀ヲ事トスルハ有害無益ナレハ日本及朝鮮民衆ハ充分注意ヲ
 加ヘ奸徒ノ狡計ニ陥ルコトナク以テ政府ヲ監督シ國際睦誼ヲ保持セ
 ヲ是レ中日兩國ノ幸ナリ云々
 轉電先公使、北平、南京、吉林、哈爾濱、間島、長春

外務省

S 1.1.1.0-7 969 0306

電信課長

大臣

次官

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 會計

寫送先

昭和6 一〇一六四 暗

北平 廿八日前發
 本省 七月廿九日前着

亞

幣原外務大臣

第三一〇號

六月廿九日各漢字紙ハ廿日反日運動大會ノ決議（七月廿三日附機密第六
 五五號拙信参照）ニ基キ組織セラレタル北平各界反日委員會ハ廿五
 日ノ會議ニ於テ（イ）常務委員會ニ於テ反日對抗方針ヲ樹ツルコト（ロ）即
 日對日經濟絕交ヲ實行スヘク之カ辦法ハ同シク常務機關ニ於テ定ム
 ルコト（ハ）廿九日ハ娛樂ヲ停止シテ哀悼ノ意ヲ表スル様公安局ニ通令
 方ヲ要求シ且同日ハ各會一律ニ半旗ヲ掲出方通告スルコト等十一項
 ヲ議決セル旨掲載セリ

外務省

S 1.1.1.0-7 970 0307

依テ此ノ際本官ヨリ一應支那側ノ注意ヲ喚起シ置クヲ必要ト認メ廿七日市長ヲ往訪シ萬寶山朝鮮兩事件トモ夫々兩國關係者當局ニ於テ折角折衝中ナル此ノ際一部人士カ此ノ種反日運動ヲ恣ニスルカ如キハ徒ニ兩國ノ人心ヲ刺戟シ中國ノ爲ニモ百害アリテ一利ナク特ニ日本ト密接（ナル關係）アル奉天當局トシテハ慎重ニ事ニ處セラレル必要アルヘキコト等ヲ縷述シ本件取締方要望セルニ市長ハ自分モ本問題ニ付テハ大オニ頭ヲ悩マシ居ル次第ナル處黨部ノ行動ニ對シテハ中央政府ノ命令ナキ限り地方官憲力直ニ壓迫ヲ加ヘ得サル立場ニ在リ地方官憲力常ニ不便ヲ感シ居ルハ御承知ノ通ナル處本件ハノ如キニ對シテハ假令反日會側申出アルトモ官憲トシテハ之ヲ受理シ得サルハ當然ノ儀ナリ（イ）及（ロ）ニ對シテモ黨部側ニ對シ然ルヘキ方法ヲ

外務省

S 1.1.1.0-7

971

0308

以テ極力問題ノ惡化防止方勸説ヲ試ムヘシ自分ノ考トシテハ問題カ實際ニ尖銳化スルコトハ萬ナカルヘキカト思考スルモ兎ニ角自分トシテハ排日民衆ヲシテ越軌行動ニ出テシメサル様充分努力スヘキカ故ニ御安心アリタシト述ヘタリ尙其際市長ハ一般民衆ハ萬寶山及朝鮮事件ノ真相ヲ知ラス爲ニスル者ノ宣傳ニ迷ハセラレ居ル次第ニ付此ノ際兩國政府協議ノ上速ニ之カ真相ヲ發表シ一般ノ疑惑ヲ解クコト最大急務ナルヘク斯クセハ自然反日運動モ之カ擴大ヲ防キ得ヘシト力説シ居タリ

支ヨリ上海ニ轉報アリタシ

支、南京、天津、奉天ニ轉電セリ

外務省

S 1.1.1.0-7

972

0309

④

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

條約

文化

人事

文書

寫送先

（文類）1.1.0.20-2

昭和6 一〇一二八 略

南京 二十八日後發
本省 七月二十八日後着

亞、通

幣原外務大臣

第四四五號

往電第四三九號ニ關シ

其後反日團體ハ市内活動寫眞館ニ宣傳員ヲ派遣シ休憩時間ヲ利用シ
反日講演ヲ爲サシムル外最近ノ豪雨ニテ市街ノ大部分浸水セル關係
モアリ別段反日運動無カリシカ二十七日市黨部ニ於テ愈々「首都各
界反日護僑救國會」ヲ組織シ全國律師協會代表吳邁等九名ノ委員並
ニ宣傳、検査ノ各部長ヲ選定セル趣ナリ委細公信
支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

外務省

記録名 蕙愛山農場事件
排日会報

支、北平、奉天、天津、漢口、廣東、青島、濟南へ轉電セリ

外務省

S 1.1.1.0-7

974

0311

S 1.1.1.0-7

973

0310 (記)

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

文化

人文

文書

會計

寫送先

昭和6 一〇一六一 暗

漢口 二十八日後發
本省 七月二十八日後着

亞、通

幣原外務大臣

第四九三號

往電第四九〇號ニ關シ

其後當地平漢鐵路工會及武長（不明）鐵路特別黨部ニ於テモ萬寶山
事件ニ關スル排日通電ヲ發シ漢口及武昌ノ國貨合作者モ夫々國貨促
進運動委員會ト提携シ激越ナル排日傳單並宣傳書様ノモノヲ市中ニ
配布シ日貨排斥運動ニ氣勢ヲ添ヘ居ル處武昌側ニ於テモ漢口ト歩調
ヲ揃ヘテ排日運動ヲ起スコトトナリ縣黨部ハ武昌各界代表者百餘名
ヲ召集シ本月二十五日反日援僑會ヲ催シ（一）武昌縣各界反日援僑委員

外務省

會ノ設立（二）委員ハ縣黨部黨務委員中訓練及宣傳部ニ籍ヲ有スル者各
一名ノ外各團體及機關ノ代表者一名宛トス（三）委員ヲシテ組織大綱ヲ
作成セシムルノ三項ヲ決議セル趣ナリ

武漢各界ハ本委員會「省黨部及男女各大學記念週」ノ名目ヲ以テ萬
寶山事件ニ關スル排日後援大會ヲ舉行スル筈ニテ各地ノ團體及學校
等ニ對シ出席方勸誘シ居ル由ノ處漢口總商會ニ於テモ來ル二十九日
會員ヲ召集シ對日經濟絕交談話會ヲ開催スルニ決セリト傳ヘラル尙
漢口反日援僑委員會ハ日貨検査隊及日貨調査隊ヲ組織シ昨二十六日
其一部ノ成立ヲ見タルモ同委員會豫定ノ通八月早々對日經濟絕交ノ
實行ニ入ルコトハ依然相當困難ナルヘク差當リノ處避難者救援資金
募集ノ爲市中ニ關係者ノ排日宣傳ヲ見ル程度ナルヘシト認メラル

外務省

S 1.1.1.0-7

976

0313

S 1.1.1.0-7

975

記 0312

寫送先

會文人情條通歐亞
計書事化報約商米細亞

大臣
次官

電信課長

(分類) 1.1.0.20-2

七月三十日午後南。市公共体育场ニ於テ市民大會ヲ舉行スル趣ナリ
北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東、南京ニ轉電シ支ヘ轉
報セリ

第三一七號

幣原外務大臣

村井總領事

昭和6

一〇一四五

略

上海
本省

廿八日後發
七月廿八日後着

亞

外務省

S 1.1.1.0-7

978

① 0315

代理公使ヨリ上海及商務官ヘ奉天ヨリ哈爾濱、吉林、長春ヘ轉報ア
リタシ
冒頭往電ノ通轉電暗送セリ

外務省

S 1.1.1.0-7

977

0314

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

文化

人事

文書

會計

寫送先

昭和6 一〇一四六 略

上海 本省

七月二十八日後發

通

幣原外務大臣

村井總領事

第三五九號

上海ニ在ル全國商會聯合會ハ二十七日附ヲ以テ國內各地商會ニ對シ

大 常務委員會ニ於テハ對日經濟絶交ヲ爲シ積極的ニ國貨提唱ヲ爲

スコトヲ議決シタルニ付各商會ハ今後(一)日貨ノ使用ヲ絶對ニ止メ(二)

積極的ニ國産品ヲ提唱シ(三)各工廠ノ加工製品ハ洋貨ヲ模倣シテ作り

以テ利用ニ資スヘシトノ通電ヲ發シタル趣ナリ

北平、奉天、天津、青島、漢口、南京、廣東ニ轉電シ代理公使へ轉

報セリ

外務省

S 1.1.1.0-7

979

0316

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

文化

人事

文書

會計

寫送先

昭和6 一〇一六七 略

上海 本省

二十八日後發
七月二十九日前着

亞、通

幣原外務大臣

村井總領事

第三六〇號

虞洽卿ハ反日委員ノ主席ニ推サレ居ル處最近該會會合ニ一切出席セ

ス二十五日往訪ノ國開通信記者ニ對シ自分ハ日本帝國主義侵略政策

ニ反對シ支那外交ノ後楯トナル意味ニ於テ反日ニ贊成ナルモ内外多

端ノ折柄徒ニ一時ノ憤リニ乘シ唾臍ノ恨ヲ貽ス虞有ルカ如キ行動例

へハ現在反日會カ採レル一切ノ日貨ニ對スル輸入禁止輸入日貨ノ抑

留沒收竝ニ提案中ノ違反者ニ對スル處罰方法等ニハ贊成スルコト能

ハス政府及各會ハ宜シク一致シテ支那人民自身ヲ苦シマシメサル正

S 1.1.1.0-7

980

0317

シキ有效ナル排日ニ從事スヘク斯ノ如キ廣汎ナル排日運動ハ宜シク商業團體ヲ主体トシ之ニ主宰セシムヘシ云々ト語リタル趣ナルカ右ハ往電第三五三號「ウッドヘッド」ノ公開狀ヲ讀ミタル後ノ「インタービュー」ト推察セラルル處反日團側ニ於テハ右ニ對シ虞ノ態度カ最近漸次軟化シ來リ反日運動ニ熱心ヲ失ヒタルヲ遺憾トシ其發表セル意見ハ目下著々進行中ノ排日運動ノ氣勢ヲ殺クコト甚タシキモノ有リトナシ七十餘名ノ連名ヲ以テ反對宣言ヲ公開シ完全ナル經濟絶交ハ日本帝國主義ノ自覺ヲ促ス絶對必要條件ニシテ日貨ノ抑留ハ反日運動遂行上最正當ナル手段ナリト敦囑キ又一方商民側ハ虞氏ノ議論ヲ引用シ市商譽ヲ通シテ抑留日貨ノ至急返還方反日會ニ要求スル等反日會對商譽側ノ步調ノ不一致ヲ誘發シ一般ニ多大ノ注意ヲ引

外務省

S 1.1.1.0-7 981 0318

キ居レリ尙虞ハ二十七日「上海イブニングポスト」記者ニ對シ「ウッドヘッド」ノ公開狀ハ新聞報道ノ眞偽ヲ充分確メス書カレタルモノニシテ管ニ一般世人ヲ誤ラシムルヲミナラス又英支間ノ友誼的關係ヲモ損傷スルモノナリト前提シ略々國聞通信記者ニナセルト同様ノ意見ヲ發表シ現反日會ニ對スル其態度ヲ表明シタル上「ウ」ニ對シテハ別ニ正式回答ヲ發スヘキ旨語リタル趣ナリ

北平、奉天、哈爾濱、天津、青島、濟南、漢口、福州、廣東、香港へ轉電シ支、南京へ轉報セリ

外務省

S 1.1.1.0-7 982 0319

REEL No. A-0059

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

文化

人事

文書

會計

寫送先

昭和6 一〇一四八 暗

上海 二十八日後發
本省 七月二十九日前着

亞、通

幣原外務大臣

村井總領事

第三六一號

當地ニ於ケル排日排貨運動ニ付テハ當館警察官ヲシテ日々其實際狀

ヲ内査セシメ居ル處其報告及他ノ情報等ヲ綜合スルニ

支那街ニ於ケル碼頭方面ニハ日貨検査員ト稱スル者時々見廻リ來

ルコトアルモ其多クハ附近ニ於ケル無賴ノ徒カ日貨ノ積出等アル

場合最寄ノ検査員ニ内報シ多少ノ酒代ヲ貰ヒ居ルモノナリト

停車場及碼頭ニ於テハ日本貨物タルノ故ヲ以テ検査所ニ抑留セラ

ルル貨物相當アルモノノ如ク此等貨物ハ從價一割見當ノ登記料ヲ

外務省

S 1.1.1.0-7 983

0320

從先内務

徵シ返還シ居リ目下反日會ニテハ資金ヲ得ルニ汲々タルモノアリト

反日會ハ運動資金トシテ幾ニ當地市黨部ヨリ五萬元(前回ノ日貨

排斥運動ノ際ノ救國基金殘額七萬元中ヨリ支出)ヲ借用シ居レル

由

四十七日反日會検査員ハ華商通關業者ニ就キ日華取扱ノ有無ヲ尋ネ

帳簿検査ヲ求メタルコトヨリ端ヲ發シ遂ニ検査員ハ散々毆打セラ

レ退散セル事件アリ斯ノ如キハ黨部カ牛耳ヲ執リ居リシ從來ノ「ボ

イコット」ニハ聞カサリシ所ナリト右御參考迄

北平、奉天、天津、青島、濟南、廣東、南京、漢口へ轉電シ代理公

使へ轉報セリ

外務省

S 1.1.1.0-7 984

0321

秘

電信寫

昭和6

暗 重慶 本省

七月廿八日後着

亞

幣原外務大臣

清野領事

第一一八號

成都發本官宛電報第一一八號

大臣ニ轉電アリタシ

第一一八號

萬寶山及朝鮮ニ於ケル排華暴行事件ニ關シ當地各新聞ハ數日以來一齊ニ相當過激ナル排日的記事ヲ滿載シ居レルカ廿五日四川民衆促成會ヨリ中央政府ニ對シ激勵的ノ電報ヲ發シタル外未タ外部ニ現ハレタル排日排貨的行動ヲ認メス主ナル新聞ノ論(調)ハ郵報ス支、漢口、南京、上海へ轉電セリ

朝鮮日報
那日

B 1.1.1.0-7

985

島 0322

外務省

密

秘

陸同文

電報

支那謀次長宛

支那八〇号

当地外字新聞、イカシクホストハ昨午、紙上
於テ目録排斥問題ヲ捕ヘテ排日ノ巨額ナル
虞治郷ヲ攻撃シ排日委員会ハ國民政府
ノ主權ヲ奪ヒ其司法權ヲ破壊スルモノトナシ且
國民政府ハ最近頻ニ司法機關ヲ破壊シテ
專シテ世界何ノ國於テモ斯カル非合法的ナル
機關ノ存在ヲ許セシ國志トノ公開狀ヲ記載
セリ

國北平原協定

昭和六
七
上海公使館附武官

柳

0323

S 1.1.1.0-7

986

外務省

秘

陸同文

電報

支那謀次長宛
上海公使館附武官

支那第八〇四號

當地外字新聞ハ共今回排日ボイコットハ結局失
敗ニ終ル可シト觀測シアリ其理由トシテ昨二十三日
支那商人側代表ト反日援僑會委員ト會同セル
時商人側代表ハ上海ニ在ル日本紡績會社ノ製造
ニ係ル日本綿布ニハ南京政府ガ税金ヲ課スル關係上
之モ排斥スルハ考モノナリ又排日貨ヲ行ヒ上海ニ於
テ罰則ヲ勵行スル時ハ約五万人以上ノ失業者ヲ生ス
ヘシ之カ對策如何ト詰問セルニ之ニ對シ何等ノ具
體的答辯ヲモ爲シ得ス情況此クノ如クナレハ現在
以上惡化スルコトナカル可シト云フニ在リ

關東北平
天津南

柳

0324

S 1.1.1.0-7

987

外務省

陸軍部

秘

陸軍部
電報
支那公使館

昭和六年七月廿九日接受
上海公使館附武官

昭和六年七月廿九日接受

0325

支那公使館
当地外字新聞、イカニカ、ホスト、ハ、昨日、平、日、紙、上、
於、目、録、排、任、問題、の、捕、へ、排、日、ノ、巨、額、を、
虞、治、郷、の、攻撃、シ、排、日、委員、会、の、國民、政府、
ノ、主、權、ヲ、奪、ヒ、其、司、法、權、ヲ、破、壞、ス、ル、ト、シ、且、
國民、政府、ノ、最近、頻、々、司、法、機關、ヲ、濫、用、シ、
傳、シ、ル、セ、界、何、ノ、國、於、是、斯、カ、ル、非、法、的、の、
機關、存、在、ヲ、許、セ、ン、國、志、ト、公、開、然、レ、記、載、
セ、リ、
國、北、平、各、界、協、會、

S 1.1.1.0-7 988

公第六七四號

昭和六年七月二十八日

在中華民國日本公使館

大使館參事官 矢野



別紙添附

昭和六年八月四日 接受

0326

通者
五二

外務大臣男爵 幣原喜重郎 殿

反日會活動狀況ニ關スル件

本件ニ關シテハ不取敢電報ヲ以テ及報告置キタルカ七月二十三日ノ
北平各界反日委員會ニハ在鮮華僑代表吳水公、劉愁人ノ兩名出席シ
テ朝鮮暴動狀況ヲ報告シ次テ別紙ノ如キ反日會組織簡章ヲ決議通過
シ又二十五日會議ニ於テハ左ノ各項ヲ決議セル由
(一)各委員ノ職務

在中華民國日本公使館

S 1.1.1.0-7 989

常務委員	市黨部	朱宗升
同	省黨部	陳訪先
同	商會	趙序宸
總務組主任	平綏路黨部	羅壽
文書股長	市黨部	朱宗升
調查股長	教育會	何繩武
會計股長	銀行公會	陳宗蕃
庶務股長	自治籌備會	柴若愚
宣傳組主任	新聞記者聯合會	
講演股長	北京大學	顧適亨
圖書股長	北平大學卒業生會	
文室股長	新聞記者聯合會	

(二) 本會經費ニ付テハ常務委員會ニ於テ豫算及支出辦法案ヲ定メ本會ニ提出討議ス

(三) 本會ハ市黨部内ニ設ク

在中華民國日本公使館

S 1.1.1.0-7 990 0327

(四) 本會委員會ハ二週間ニ一回常務委員會ハ每週一回開催シ必要ノ際ハ臨時會議ヲ召集ス

(五) 反日進行方針ハ常務委員會ニ於テ案ヲ定メ本會ニ提出討議決定ス

(六) 即日經濟絶交ヲ實行スヘク其辦法ハ常務委員會ニ於テ案ヲ定メ本會ニ提出討議決定ス

(七) 在鮮華僑援助ノ爲ニ二日以内ニ不取敢二千元ヲ送附ス右金額ハ省黨部、市黨部、銀行公會、商會、自治籌備會ニ於テ調達ス

(八) 1、公安局ニ對シ二十九日ニハ娛樂ヲ停止シ哀悼ノ意ヲ表スル様全市ニ通令方請求ス

2、同日半旗掲揚方各界ニ通告ス

右報告ス

本信寫送附先 代理公使

奉 天 天 津 南 京

在中華民國日本公使館

S 1.1.1.0-7 991 0328

(譯文)

北平各界反日委員會簡章

第一條 本會ハ北平各界旅韓僑胞援助反日大會ノ決議ニ基キ之ヲ組織ス

第二條 本會ハ在鮮同胞ノ援助及日本帝國主義ニ對スル反抗ヲ以テ任務トス

第三條 本會ニ委員十六人ヲ置ク北平各界援僑反日大會ニ於テ推舉スル各團體各黨部各學校各機關ノ代表之ヲ擔任ス

第四條 本會ニ常務委員三人ヲ置キ本會一切ノ對内對外事務ヲ處理ス常務委員ハ本會各委員ニ於テ之ヲ推舉ス

第五條 本會ハ常務委員ノ下ニ下記各組ヲ設ク

(一)總務組

- 1、調査股
- 2、文書股
- 3、庶務股
- 4、會計股

(二)宣傳組

- 1、講演股
- 2、文室股
- 3、圖書股

在中華民國日本公使館

0329

992

S 1.1.1.0-7

0330

993

S 1.1.1.0-7

各組ニ主任一人各股ニ股長一人ヲ置キ主任、股長ハ本會各委員ニ於テ之ヲ互選ス

第六條 本會ハ必要ニ依リ各特種委員會各經濟絕交委員會募捐委員會ヲ設クルコトヲ一得其ノ組織條例ハ別ニ之ヲ定ム

第七條 本會ハ必要ニ依リ本會ニ參加セル各黨部各團體各學校ノ工作人員ヲ招聘シテ辦事員トナスコトヲ得

第八條 本會委員及辦事員ハ共ニ義務職トナシ公事ニ對シ車馬費ヲ給スル外俸給ヲ支給セス

第九條 本會經費ハ事實ノ必要ニ應シ委員會ニ於テ決定シ各黨部各機關各團體各學校之カ分擔ヲ請求ス

第十條 本會辦事細則ハ別ニ之ヲ定ム

第十一條 本簡章ノ不備ナル點アル場合ハ本會委員ノ三分ノ一ノ提議ニ依リ之ヲ改修スルコトヲ得

第十二條 本簡章ハ通過ノ日ヨリ之ヲ施行ス

在中華民國日本公使館

通細照
公第四九四號

昭和六年七月二十八日

在吉林

總領事 石 魁 緒 太 郎



拾壹日接受
別紙添附

外務大臣 芳澤 啓 原 喜 重 郎 殿

外務大臣 芳澤 啓 原 喜 重 郎 殿

吉林省黨部及朝鮮事件ニ關スル省黨部ノ傳單
傳報ノ件

吉林省黨部及朝鮮事件ニ關シ六月二十五日密兵政府其他各機關團體宛通電ヲ發シタル次第ハ不取敢電報ヲ以テ及發告直轄各地方處其後各方面ヨリ書面又ハ電報ヲ以テ聲援シ來リタルヲ以テ七月十八日附更ニ前同様ノ通電並中央黨部宛嚴重交渉方電報ヲ起シテ七月二十六日ニハ別紙

S 1.1.1.0-7

994

0331

爲萬縣二策告民衆書ト題スル傳單ヲ各機關團體及各戸ニ配布シタルカ右要譯左記ノ如シ
右報告ス

親愛ナル民衆、親愛ナル同胞、今次ノ萬寶山事件ハ我方屢次ノ交渉ニ拘ラス日本側ハ深ク陰謀ヲ藏シ故意ニ事端ヲ藉リテ侵襲セントシ鮮人ヲ使賊シテ民田ヲ開闢占有セントシタル爲中國人民ハ七月二日自動的ニ田地ヲ埋メ水路ヲ破毀シタル處日本側ハ軍警ヲ増派シテ種々慘虐ヲナシ遂ニ萬寶山一体ノ農村ヲ日本ノ戒嚴區域トシ完全ニ帝國主義ノ面目ヲ露シタルカ更ニ之ヲ謀ラストナシ誇大ナル宣傳ニヨリ亡國韓民ヲ指使シテ暴動ヲ企テシメ在鮮同胞數万ノ生命財産ヲ蹂躪セシメタルカ如此ハ中國ノ國權ヲ藐視シ我人民ヲ殘害スルモノニテ吾人ノ到底忍フ能ハサル所ナリ我同胞ハ宜シク自ら奮起シ一致力テ中央ニ電請シテ日本ト嚴重交渉方國民政府ニ轉達セシムルト共ニ

S 1.1.1.0-7

995

0332

我民衆ト約シテ下記諸點ニ就キ共同努力シ早急ニ其ノ實現ヲ促サン
トス

一、民衆ハ一致シテ起テ自動的ニ不平等條約ヲ廢除スヘシ

二、鮮人ヲシテ明瞭ナル認識ヲ有セシメ一致協力シテ共同ノ敵タル日
本ヲ打倒スヘシ

三、民衆一切ノ活動ハ政府ノ指示ヲ遵守シ輕率妄動シテ日本ニ口貨ヲ
與フ可ラス

四、政府ニ對スル嚴重交渉ノ督促並我等ノ取ルヘキ手段左ノ如シ

第一、我等人民ハ政府ニ對日抗議ヲ督促シ力メテ下記ノ目的ヲ達セ
サル可ラス

a 萬寶山事件ニ關係アル日本領事及軍警官吏ノ處罰

b 在鮮中國人ヲ屠殺セル暴徒並煽動者ノ處罰ト中國人民ノ受
ケタル一切ノ損害ノ賠償

c 日本ハ我政府及國民ニ對シ鄭重ニ遺憾ノ意ヲ表スヘキコト

d 以後再ヒ同様或ハ類似ノ暴行ノ發生セサル様十分保證スル

0333

996

S 1.1.1.0-7

0334

997

S 1.1.1.0-7

コト

e 今後中國國籍ニ入ル鮮人ハ須ラク日本ノ國籍ヲ離脱シ二重
國籍ヲ混有スルコトヲ許ササルコト

第二、我々人民ハ目ヲ起テ日本ト經濟絶交ヲナシ強硬ナル毅力最
大ノ決心ヲ以テ再ヒ日本ト妥協シテ消極的抵制ヲナス可ラス
是レ我等ノ日本帝國主義者打倒ノ唯一且最有效ノ方法ナリ蓋
シ日本ハ我中國ノ如キ大ナル市場ヲ有セサルヲ以テ若シ之ヲ
決定セハ日本ハ數年ヲ出テスシテ經濟上必ス最大ナル恐慌ヲ
招来シ或ハ貧弱滅亡スルニ至ルヘク如此ハ一兵ヲ費サス一矢
ヲ折ラス敵人ノ生命ヲ制スル所以ニシテ豈最モ有效ナル手段
ナラスヤ

親愛ナル民衆、速ニ猛醒セヨ帝國主義者ハ我カ國土ヲ侵畧シ我カ人
民ヲ殺戮セルモ徒ニ痛心ス可ラス宜シク努力シテ抵制ヲ實行セサル
可ラスサスレハ管ニ萬寶山事件ニ勝利ヲ得ルノミナラス南滿鐵道、
旅順、大連、臺灣、琉球ノ如キ奪取セラレタル我等一切ノ權利ハ夫

通索

々拱手還附ヲ見ルニ至ラン
本會ハ誓ツテ全國同胞ト一致奮闘シ勝利ノ來ランコトヲ期ス
中國國民黨吉林省黨務指導委員會

本信寫送附元(傳單添附省署)

在支公使 北平 南京 奉天 長春 哈爾濱
齊々哈爾濱 閩島 局子街
關東長官 朝鮮總督

0335

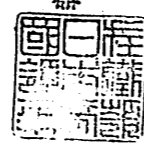
S 1.1.1.0-7 998

亞細亞司
機密第三五一號

昭和六年七月二十八日

在 鐵嶺

領事代理 石塚 邦 器



外務大臣男爵 幣原喜重郎 殿

萬寶山及鮮内事件ニ關シ開原、鐵嶺外
交協會策動ノ件

騰報ニ依レハ開原縣外交協會ハ吉林外交協會及中央革命外交宣傳部
等ヨリ萬寶山及朝鮮事件ニ關シ外交宣傳民衆運動ヲナスヘントノ宣
傳文ヲ受ケ二十三日午後七時縣教育會ニ會員及各團體幹部其他要人
等四十餘名集合シ其運動方法等ノ打合會ヲ行ヒ縣教育局長ノ起草ニ

在鐵嶺日本領事館

0336

S 1.1.1.0-7 999

ヨル該事件ノ徹底的嚴重交渉並被害者ニ對スル賠償要求ニ關スル電
 報ヲ外交協會ノ名ヲ以テ遼寧駐在外交特派員辦事處及中央外交部ニ
 打電シ一方遼寧總商會ノ通知ニ基キ朝鮮ニ於ケル被害者ニ對シ各團
 体ニ於テ義捐金ヲ募集送付スルコト外交協會ハ講演其他ノ方法ニ依
 リ積極的民衆宣傳ヲ行フコトヲ決議セリ

又鐵嶺外交協會分會（青年會）ニ於テハ本月十八日同會内ニ役員五
 ・六名集合協議ノ結果朝鮮ニ於ケル華僑殺害事件ニ關シ遼寧外交協
 會ニ對シ左記電報ヲ發シタル趣ナリ

記

韓奴甘ンシテ僥倖トナリ僑胞ヲ殺害ス當ニ民衆ヲ喚起シ一致對抗ス
 ヘシ貴會高キニ登リ一呼スレハ衆山之ニ響應セン結局如何ナル主張

在鐵嶺日本領事館

0337

1000

S 1.1.1.0-7

ヲナスヤ弊會ハ謹シミテ追隨ヲ願望ス

鐵嶺外交分會

右何等御參考迄報告ス

本信寫送附先 在中華民國代理公使

在北平主席

奉天 吉林 靑島 哈爾濱 各總領事

長春 牛莊 遼陽 安東 南京 各領事

在鐵嶺日本領事館

0338

1001

S 1.1.1.0-7

昭和六年七月二十八日
機密第二四一號

在牛莊

領事 荒川 充



外務大臣 岡野 敬 東京 喜重 郎 致

鮮支人衝突事件ニ關スル遼寧郵務同人會ノ宣言

蓋平縣郵政局員ノ内話スル處ニ依リハ本月十九日遼寧郵務同人會ハ「全國郵務工友諸兄ニ告シト顯スル左記宣言書ヲ各縣郵政局ニ送致セリト謂フ
石御參考迄報告ス

記

全國郵務工友諸兄ニ告ク

日本人ハ鮮人ヲ使啖シ鮮内ニ於テ華僑ヲ排斥スヘク慘虐ヲ敢行セルカ本會ハ此ノ恥辱ヲ雪クニ為敢テ全國郵工友諸兄ニ告グルモノナリ

夫レ日本帝國主義我ハ鮮人ノレテ大規模ノ華僑排斥ヲ為サンカ為暴動ヲ記サシメ先ツ在仁川華僑ノ慘殺ヲ行フヤ此ノ風潮全鮮内ニ蔓延シ平壤ノ衝突事件ヲ惹起セシムルに至リタルカ鮮人暴徒ハ華人死傷者百余名ヲ中一丈長三四丈ノ大溝五條ノ中ニ埋没セリ是レハ僅カ判明セル一部分ナルカ其ノ他ニ死体不明ノモノ幾何ナルヤ計リ知ラズ得サルナリ 安東收容所ニハ避難民男女約五千名ニ達シ其中予足ヲ折斷セラレタル者或ハ失眼セル者等數百名アリ其ノ慘状安具ニ見ルニ忍ビザレモノタリシ我カ駐蹕總領事館及華僑會ニ於テハ事件勃發後ト同

S 1.1.1.0-7

1003

S 1.1.1.0-7

1002

昭和六年八月參日 接受
0339

時ニ調査員ヲ仁川ニ派遣セルカ日本側ハ凡有回避策ヲ講シ其
同檢証ニ應セサルヲ以テ重抗議ノ結果漸クニレテ立會セ
シメタルニ被害者華商等ハ調査員ヲ見ルマ弭泣之レ止マ
シテ委員ニ聞ク者ヲレテ涙ナカラシメタル状態ナリ平壤ノ慘状
タルヤ推シテ知ルヘシ其ノ他各地事件トモ大同相異ナルヘク此ノ
非人道的帝國主義ノ滅亡ヲ圖ルニ委員ニ最大ノ努力ヲ要スヘキナリ
現在本國ニ避難セルモノハ僅カニ鮮人ノ刀斧ヲ免レタルニ未タ歸國
セサル同胞ハ瘡痍極リナキ異族ノ軒下ニアリ生ント欲スルを得
ラズ歸國セクトスルニ亦能ハサルニ窮境ニアルモノ幾千幾万ナルヤ
計リ知ラス救済工同人會員ハ悲憤慷慨ノ余リ此ノ共ニ出
テタルモノニレテ中ス此ノ恥辱ヲ雪カウト推スモノナリ而レテ
其捷徑路トシテ左記ノ法ニ項ヲ決議セリ
一、義捐金ヲ募集シ罹災同胞ヲ救済スルコト

ニ、全國ニ宣言民衆ヲ喚起シ政府當局ノ外交後援ヲ爲シ
協力一致以テ經濟的絶交ヲ断行シ日本側ノ謝罪損害
賠償並ニ今後ノ保証ヲ爲サシムルコト
我カ全國郵工愛國ノ諸兄ヨ速ニ此ノ國恥ヲ雪クコトニ奮起
セラレタシ 此ニ宣言ス

民國二十年七月十八日

遼寧全省郵務同人會

本信寫送付先

代理公使、北京、奉天、長春、吉林

S 1.1.1.0-7

1005

S 1.1.1.0-7

1004

0340